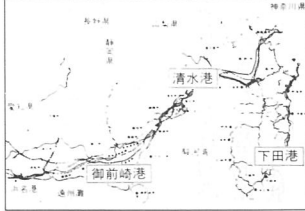
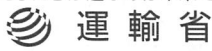


わたしたちが運ぶのは未来です



みなと しみず

発行所

第五港湾建設局

清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号

TEL 清水<0543>52-4146代

10.29

東海地区港湾整備促進大会開催

—平成3年度予算及び
次期5箇年計画に向けて—

日本港湾協会主催で10月29日に名古屋港湾会館で開催された今年の促進大会は、平成3年度予算だけでなく第8次港湾整備5箇年計画及び第5次海岸事業5箇年計画の策定に対する大会であり、多数の出席者で盛り上がった。

静岡からは、榎本港湾課長、松南清水港管理局長、宮城島清水市長、柏原御前崎町長、石田松崎町長、中村清水港工事事務所長らが出席した。静岡県港湾振興会会長の宮城島市長は、あいさつの中で、「オイルショック以降、港湾整備が沈滞したが、そのつげがきている。次期5箇年は重要で、市民に対して港のPRに努めたい。」と今後の抱負を述べた。



▲名古屋港湾会館ホールで開かれた促進大会

本省堀井計画課長、藤野港湾協会理事長は、年末の予算編成時期が5箇年計画策定にとつてきわめて重要であり、生活関連部分など不透明な部分があり、港湾整備の声の結集を呼びかけた。また、五建櫻井局長は、国際情勢の変化の中で東京や大阪に頼れない東海圏整備の機運の高まりを強調した。

稿 寄

港に寄せる
期待と誇り

明日を拓く漁業の共存共栄

—御前崎漁協組合長理事

小田 孫一



小田組合長

御前崎町は、伊豆半島と向い合う静岡県の最南端に位置し、人口一万一千四百人、世帯数二千八百戸、面積十二平方キロの岬の町で、遠洋、近海鰹・鮪漁業を中心に沿岸漁業基地として栄えてまいりました。

港の歴史も漁港から国際貿易港として大きく変わろうとしております。今日迄に御前崎漁協が果たして来た役割は決して小さいものではないと確信しております。港湾整備をはじめ町の産業や経済の発展、地域振興に寄与して行く、二十一世紀に向けての漁協の進むべき道を探りながら私の考え方の一端を寄稿致します。御前崎港は、昭和二十三年避難港として建設が始まり、

昭和二十六年地方港湾の指定を受け総工費二億五百万円を以て第一期工事が本格的にスタート致しました。総工費の三割に当たる六千五百万円が地元負担として県に納入することになりましたが当時の貧弱な町の財政力では到底至難の技であり、そこで負担金の半分当たる三千万円を漁協で調達された旨依頼されました。漁協も単独でこれを調達する資力なきため当時最盛期を迎えていた大型遠洋漁業の船主同盟会に負担の要請をし、協議の結果、漁協が二百万円、船主同盟会加盟船が二千八百万円を負担することで港の建設は始まりました。当時の漁業関係者が港に寄せる期待は非常に大きなものであったと思います。漁業の最盛期には遠洋鮪船十二隻、遠洋鰹船二十五隻、近海鰹船十六隻で町の財政の中に占める漁業の割合は六十五%という時代もありました。その後燃油の高騰、二百海里の定着、魚価の低迷という三重苦を背負い、又、漁業種類によつての減船という漁業史上かつてない苦難の時代を迎えているのが現状であります。

そして昭和四十六年、高度成長時代を迎え外材需要の増大により木材港として整備促進

されました。しかし突然のオイルショックは、日本経済に大きな打撃を与え港に進出予定の木材関連会社数十社が取りやめとなり苦難の時代が続きました。

現在は重要港湾多目的港として整備がなされ、静岡県の大三港湾の一つとして発展しつつあります。この港は、公共投資約四百億円、この内、地元負担金三十億円余は町民の汗の結晶でもあり、私達の大きな誇りであります。

平成三年度から始まる第八次港湾整備計画では、多目的物流港湾として又、観光滞在型リゾート海浜として生れ変わるうとしております。平成七年度までの事業計画で人工海浜、多目的広場、港が見える丘公園等レジャー基地へと脱

皮し、西暦二千年を目前とした町の総合計画も「明日拓く海の町」を柱の一つに設定して促進されております。

しかし私は、漁業は苦難の時代を迎えているとはいえず、先人、先輩が必死で守り育てたこの漁業を更に進展させ後世に継承していくべく最大の努力を傾けていきたい。恵まれた海の自然と土地柄を大切に、これを誇りとして働ける漁業を特色ある地域産業として育てていきたいと考えております。漁業を地域振興の基幹産業として位置づけ企業だけの港ではなく他産業との共存共栄を図りながら豊かな活力ある地域作りに貢献していきたいと念願しております。

今後共関係各位のご理解と御支援をお願い申し上げます。

職場紹介② 〈労務厚生課〉

人の一生について、様々な面倒を見ることを、よく「揺り籠から墓場まで」という言葉で言い表しますが、労務厚生課では、まさにこの内容を業務としています。

労務厚生課は、係が労務厚生係の一係で、洞谷課長と石川係長の二名で構成されており、業務は職員の健康及び安全に関すること、公務上の災害及び通勤による災害補償に関すること、福利厚生に関すること、宿舍の管理に関すること、職員の結成する団体に関すること、を担当しております。職員の日常生活とかかわりの深い部分が多い点で、他の課

下田港作業基地 ケーソン製作工事

下田港の防波堤は、避難港の整備拡充と津波対策への効果を目的に建設を行っております。

建設現場では平成元年に2函の据付けを完了し、今年度は更に赤根島寄りの4函を据え付ける予定です。すでに2函は仮置き、残りの2函の製作も急ピッチで進んでいます。

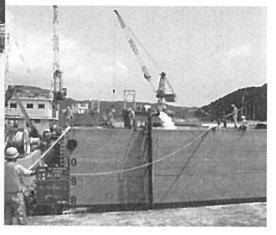
ケーソン製作の内容は、ケーソン(二千トン級)をフローティングドック(4500トン積)の上で2函製作し、港内の仮置場に進水し仮置を行うことです。(下田工場・山田工事係長)

・係とは若干性格を異にしています。



▲労務厚生課のスタッフ

▼仮置されるケーソン



▲フローティングドックの上で製作中のケーソン

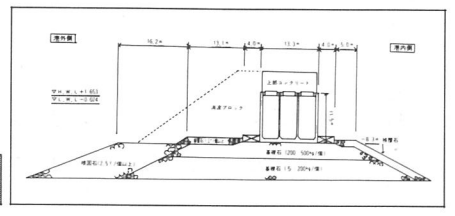
清水港へ 「しんかい6500」入港

十一月三日、潜水調査船「しんかい6500」が支援母船「よこすか」に乗せられ清水港に入港し、四日一般公開が行われ、約四千人の見学者が海底資源調査や地震予知などに活躍が期待される「しんかい」を熱心に見学した。(〇)ポーター・千田庶務課長)



▲11月4日一般公開された「しんかい」

下田港防波堤断面図(F-2区)



90 全国なぎさシンポジウム・インしずおか

海となぎさと人と新しい関係を求めて、全国なぎさシンポジウムが九月十九日から三日間、浜松市のブランド浜松で開催され、初日には中村所長が、二日目には宮下第一工事課長がそれぞれ参加しました。

第一日目は、鼎談「なぎさ」のあるべき姿や将来の夢、更に「なぎさ」と人との新たな付き合い方をさぐる。およびイントロダクションとして映像による静岡県の海岸線の紹介があった。
第二日目は、静岡県の多様な海岸線を素材に他県の事例も交えそれぞれの海岸の課題について、四分科会に分かれ

て討論し、その成果を全体会議に計つて、将来に向けての提言を参加者全員で採択してディスカッションを終了した。

第8次港湾整備5カ年計画の策定について

—— 工務課長

1、計画概要

製品輸入の急増への対応や豊かさを実感できる国民生活実現のため、平成3年度以降に於いても引続き計画的な整備を推進する必要がある、港湾整備緊急措置法（昭和36年法律第24号）により、平成3年～7年の五カ年間における港湾整備事業の実施の目標及び量を定めるものである。

2、今後のスケジュール

平成2年度は「今後の中期的な港湾整備の基本的方策について」の港湾審議会からの答申（11月）、投資規模について閣議了解（平成3年2月）、平成3年度は港湾整備緊急措置法の改正（5月）、港湾審議会へ「港湾整備五カ年計画について」の諮問、答申を経て閣議決定（11月）の予定である。

第二日目は、浜名湖周辺を視察して散会した。なお、次期開催地は宮城県の予定。
（リポーター・宮下第二工務課長）

大草光男

沼津港 『マリンフォーラム'90』

十月十二日、沼津市の第六回海人祭の一環として、夢を描こう、沼津港の未来」をテーマとして、沼津港活用のアイディアコンペ審査会およびパネルディスカッションが行われた。

沼津市の海岸線は、延長47kmと長く複雑に入り組んだリアス式の海岸が続ぎ、たいへん変化に富んだ美しい海岸線を形作っている。
このようないことで沼津市民

東海大学教授の酒匂敏次先生を含め六人のパネリストの討論会の形で行われ、時間を超過して白熱した議論が行われました。

また、沼津港活用のアイデアコンペでは、アイディア賞が五洋建設㈱に、ポートルネッサンス賞がスルガ銀行に、シビルポート賞が沼津西高等学校の田中由紀子さんに、その他にも沢山の賞品、賞金が多くの方に贈られました。
（リポーター・宮下第二工務課長）

下田市漁業協同組合合併 20年記念式典開催される

去る十一月二十日、下田市民文化会館大ホールにおいて、池谷下田市長・高木県漁連会長はじめ来賓御出席のもとで盛大に挙行されました。

昭和四十五年十一月、外浦・白浜・須崎・下田・吉佐美・田牛の六漁協が合併し、賀茂地区における漁業の基幹基地として幾多の困難を乗り越え、合併時の6倍の水揚げ、11倍の信用事業等、国内でも有数の漁業協同組合の基盤を築きあげた組合長はじめとする組合員各位の御努力と団結力に深く感銘しました。
（リポーター・栗田次長）

工場だより

—— 御前崎工場 ——

工事係長・小栗 智明

堅い魚からのメッセージ

御前崎の朝は、まだ空に星が輝いている頃から動き出す。「ええ、凪だし、魚があればええな」漁師の活気に満ちた声で御前崎の一日が始まる。夫婦で手際良く出漁の準備に忙しく働く。そしてそれぞ

れの漁場を目指しエンジンの音を響かせ港を出て行く。御前崎の海は季節に応じ多種、多彩の魚がとれる。中でもカツオの水揚げは全国でも有名です。五月になると黒潮に乗って北上して来る初カツオの頃は港が船団でラッシュ状態となる。新鮮な初カツオで市場を埋めつくす。どんな高級魚も片隅に押しやられるほどである。ある日、市場に揚がった少々ふとめのカツオにインクビューをしてみた。日頃美味なる味の提供を感謝し、礼を言つた所「冗談じゃねーぜ」の言葉が返つて来た。カツオ君いわく。今、並んでいる仲間には皆んな未成年だわさー、初もの好きな日本人が珍重して我先に釣り、サシミ、

タタキ（土佐づくり）、カツオ節、ナマリ節にそれぞれ調理して食っている。「目に青葉……」の頃に合っているのか合わせているのか分からぬがまあ、これだけ人間達に重宝されると魚冥利、いや、カツオ冥利に尽きる。だが、本物のカツオは秋に食るのが旬初夏に北上した仲間が工サをタップリ食い栄養をつけ丸々と大きくなり三陸沖から南下する。漁師達は「もどりカツオ」と俺達を呼ぶ。六キ口を超す横綱級もいる。漁師と横綱が力の勝負!! でも、いつも漁師に軍配が上がる。人間達の使う竿も糸も丈夫に出来ているし、俺達が重い二人掛りで竿を上げる。こちらは一匹、勝負にならねー。釣られたからには食われてやる。秋の俺達は油が乗りすぎてカツオ節にはならぬ。生が最高。大どんぶりにしよう油と下ろし生薑でタレを作り切り身を浸し、指で軽く押しつけてタレに馴染ませる。どんぶり飯の上に切り身を乗せタレを掛ける。次は熱湯をぶっかける、熱い内にカツオも飯も汁も豪快にかつ込む。身の表面は白く、中の身は赤い。生ぐさみは一切無い。漁師独特の料理「まご茶」初カツオでは味わえぬ味。ぜひ食べろべし。

以上カツオ君からのメッセージでした。帰り際にカツオが吐いた。俺も三陸沖まで行きたかった、チクシヨ〜!!

下田工場

下田港港湾整備構想基本計画(MTP)の概要(その一)

―次長・栗田岩男―

本計画は、下田市の有する資源及び特性を最大限に活かした個性豊かなみなとまちづくりを推進することをねらいとして、下田港の避難港としての機能を確保しつつ、港湾空間を高度に利用して、水際線の魅力を最大限にひき出し、陸域の利用と一体となった魅力ある個性的な「みなとまちづくり」を開発の基本構想としたものであります。この度市長の諮問機関である下田港湾対策協議会(地元関係機関

有識者20名の委員構成)において、計画内容の説明が行われた。今後同協議会において継続的に審議が進められ、21世紀に向けた新たな下田湾の整備計画が推進されようとしている。

開発計画は、下田港及び周辺地区を四つの重点整備地区として選定し、将来整備イメージ、整備効果、事業期間などを考慮して、鶴島防波堤ゾーン、外ヶ岡ゾーン、浄化センター周辺(北側)ゾーン、柿崎海岸線周辺ゾーン(寝姿山・柿崎海岸線及び柿崎前面水域ゾーン)の整備を行うこととしている。今回の整備計画は、下田市、静岡県、第五港湾建設局の三者が、(財)港湾空間高度化センターに委託し、下田港マリンタワープロジェクト調査委員会を組織して調査をとりまとめたものであります。

「トビ職」の研修見学会

十一月八日、社団法人東京都工業会の研修生一行53名が、当事務所のケーソン製作現場を訪れた。池田工事課長の説明で、ケーソンの製作、進水の工法を熱心に見学し、二年間の研修の最後を締めくくった。(リポーター・杉森次長)



▲ケーソン製作現場を熱心に視察する研修生一行

「潜水病」国際学会開かる

十一月八・九日の両日、日本ホテルで、日、米、英、蘭の各国の潜水病の専門学者が集まり、埼玉医大(梨本一郎教授)主催で国際学会が開かれた。四方国から潜水病に關し権威のある国際的医学者約30名が参加し、潜水病の基礎的研究発表と討議が行われた。八日夕方にはレセプションが和やかに行われ、地元有志の若い女性による「港カツポレ」も披露され、各国の出席者の喝采を浴びた。

また、当事務所から杉森次長が会議に対する祝詞を述べた。

(リポーター・千田庶務課長)

清水市漁協が役員改選

―新組合長に宮城島昌典氏就任―

清水市漁業協同組合(組合員約六百二十人)は、去る十月八日開催の臨時総会及びその後の理事会(十一月二十日開催)において役員の変更を行い、組合長理事に宮城島昌典氏、副組合長理事に伏見安正氏をはじめとする理事13名、監事3名をそれぞれ選任しました。



▲レセプションにて諸外国のドクターに歓迎のあいさつをする杉森次長

▼みんなで楽しく記念撮影



奥秩父への旅

11月10・11日にかけて清水地区(5課合同)の親睦レクで秩父方面へのバス旅行をしました。

紅葉の長瀬ライン下り等素晴らしいものがいっぱい明日の活力が生れる楽しい思い出をつくりました。無事終えたことを幹事として感謝いたします。

奥秩父もみじの山をひた走る

(リポーター・土屋工事専門官)

清水港の動き

- 10月2日 下田港設計施工会議(名古屋)
- 10月3日 清水港港湾関係所長会議(清水)
- 10月4・5日 御前崎港振興会和歌山県視察
- 10月11日 日本港湾建設協会技術懇談会(静岡)
- 10月17日 和歌山県議会建設委員会清水港訪問
- 10月22・23日 西伊豆MTP第一回調査委員会(松崎)
- 10月29日 東海地区港湾整備促進大会(名古屋)
- 10月30日 下田港港湾対策協議会(下田)
- 10月30日 清水港振興協会・清水港利用促進協議会・清水港連絡協議会・山口・九州方面視察
- 11月7・9日 第41回直轄技術研究会(豊橋)
- 11月8日 東京湾工業会ケーソンヤード視察(清水)
- 11月8・9日 国際潜水医学専門委員会(清水)
- 11月21・22日 第24回管内直轄港湾工事報告会(名古屋)
- 11月22日 田港外防波堤について発表し、見事全建賞を受賞
- 11月22日 東部地区貿易懇談会(沼津)
- 11月26・27日 第五港湾建設局管内主管部長会議(大山市)
- 12月4・5日 第7回港湾技術報告会(東京)池田第一工事課長が富士見埠頭RC電気防食工法について発表